2024/4/21　　「 理想と現実 」　　ルカ 20:20-26

満開の桜も風に舞い、新緑の季節になりました。大型連休まであとひと息、教会も定期総会の準備に、もうひとふんばりです。赤岩伝道師を迎えての、新しい歩みに、祝福をお祈りいただき、共に主の業に仕えてまいりましょう。

理想と現実

私たちの生きている世界には、理想と現実、本音と建前、裏と表があります。今朝の聖書の箇所は、そんな世の中の矛盾をついている物語だということができるでしょう。当時のユダヤは、ローマ帝国の支配下におかれていました。属国であるため、通過はローマ貨幣が流通し、皇帝への税金を納めなければなりませんでした。イエス様の弟子となったマタイは、元は収税人で嫌われ者でした。歴史も文化も言葉も違う、ローマの支配は、イスラエルの人々にとって、心の底では許しがたい現実だったからです。圧倒的な武力と財力を誇る彼らに、たてうちできません。しかし、ある意味では彼らに守られ、繁栄している部分もあったのです。人々の心には、そんな閉じ込められたエネルギーが、不満となって膨らんでいました。

イエス様の敵対者たちは、この力を利用して、イエス様を貶めようとしました。神の国の到来という、いわば究極の理想を語るイエス様が、やっぱり税金は納めなさいといえば、なんだ建前はそうでも本音はそうかと幻滅します。逆に革命家のように税金を納めるなと息巻けば、皇帝に上訴して、反逆者にすれば良いのです。実際に、この問答は、偽りの証言によって、十字架にかけられる理由の一つにされました。

イエス様の答えは、私たちに新しい地平線を示しています。現実にたって、それでも理想を語り、そのために命を差し出してくださる愛の姿です。

神のものだ

聖書の読み方で、大切なことは最後に書かれている、という原則があります。「信仰と希望と愛、そして最も大いなるものは愛」などはその好例です。今朝のみことばは「カエサルのものはカエサルに」という前半が有名ですが、実は大事なのは後半です。「神のものは神に返しなさい」という部分です。向き合えば向き合うほど、深く心に突き刺さる、厳しい言葉ではないでしょうか。自分のものだと思っている、その思いこそ、あなた自身を閉じ込め、自由を奪っている原因なのだと諭すからです。

ある意味では、皇帝の支配よりもさらに大きな支配は、神様の支配です。その方の前に、お返しするものは、領収証がもらえる程度の何分の１というものではありません。教会への什一献金？いえいえ、それは本来は「それでも十分に神様の恵みを体験できますよ」という「サンプル品」、「お試し価格」です。聖書が語る神様への応答は、「あなた自身が、神様の作品です。その命すべてで、神の栄光をあらわしなさい！」という命令なのです。何ということでしょう！今週も、用いられましょう。